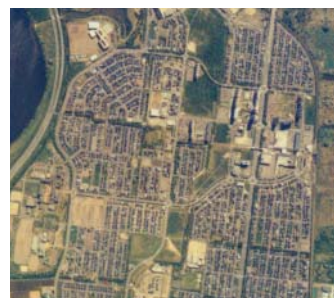


『みち』って何だろう?



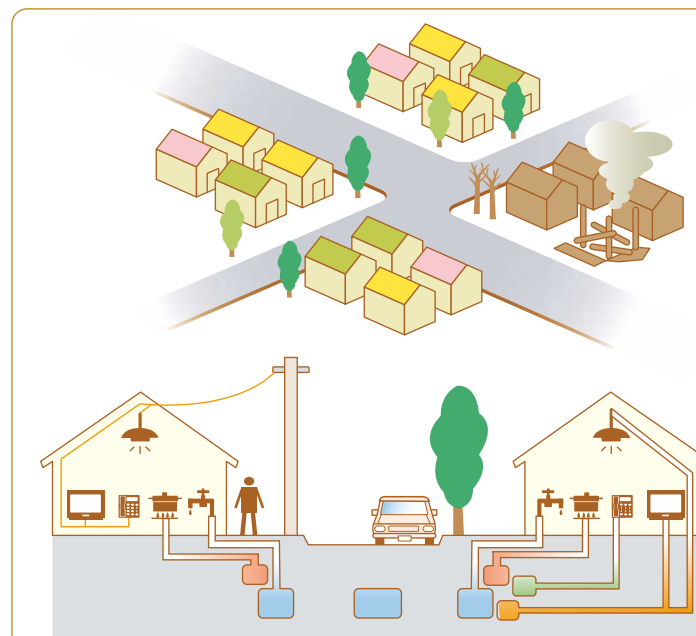
つなぐ

『みち』の一番大きな働きは、人や物がスムーズに移動できることです。遠くにあるものが手に入るのは『みち』のおかげです。



まちをつくる

街を作るときは、まず『みち』の位置を決めてから、住むところや公園、工場、お店などの集まりを作っていきます。



ひろがりをつくる

もし『みち』がなかったら、家と家はくっついたものになってしまう。しかも電線や上下水道などの、生活に必要なものを作る場所もなくなってしまいます。家と家との「ひろがり（空間）」を作ることによって、電気やガスを家庭に通したり、火事があっても小さい範囲におさめることができます。



あ〜っ!



トンちゃん、だいじょうぶ大丈夫?



ぼくたちの力じゃ動かせないな…。どうしよう…。



おーい!

あ!? おじさん!



これはエゾシカさん! どうしたのですか?



カレーの材料が来ないから、きになってね。

■ 道路の役割と機能

■ 道路の役割

道路には多くの役割があります。主な役割は、以下のようになります。

- 国土構造の骨格として経済・社会基盤を形成し、広域的交流により特色ある都市、農山漁村等の発展に寄与すること。
- 流通活動を向上させ、教育、文化、医療等社会的サービスの享受を可能とする住みやすい地域社会を形成すること。
- 良好な居住環境を形成し、通勤、通学、買物等あらゆる日常生活活動を確保すること。
- 防災空間として緊急災害時における避難、救援物資の輸送等の交通路として不可欠であります。
- 電気、上下水道、ガス等の供給処理施設を収容する空間や、通風、採光等のための都市空間を提供します。

■ 道路の機能

道路は役割を果たすために多くの機能が必要になります。道路の機能は、交通機能と空間機能に分けられ、さらに交通機能はトラフィック機能(自動車、自転車等の通行サービス)とアクセス機能(沿道の土地・建物等への出入りサービス)に分けられます。

高速の道路では、トラフィック機能が重視され、市町村道では速度等よりアクセス機能が重視されます。

アクセス機能をもたらす間接的な効果として、土地利用誘導効果があります。特に都市内では街区の形成や市街化を図るうえで重要であります。

また道路整備と地域開発の相互作用は道路の持つ土地利用誘導効果を介して行われます。



道央自動車道 三笠インターチェンジ

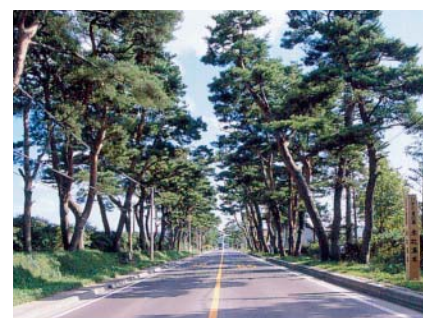


日高自動車道 厚真インターチェンジ付近

■ 道路の構成

道路は、道路と一体になっている、トンネル、橋、渡船施設、道路用エレベーター等の施設と附属物で構成されます。

道路の附属物は、道路構造の保全、安全かつ円滑な道路の交通の確保その他道路の管理上必要な施設又は工作物で、次に掲げるものです。



■ 道路上のさく又は駒止

■ 道路管理者の設けた道路上の並木、街灯

■ 道路標識、道路元標又は里程標

■ 道路情報管理施設(道路上の道路情報提供装置、車両監視装置、気象観測装置、緊急連絡施設その他これらに類するもの)

■ 道路に接する道路の維持、又は修繕に用いる機械、器具又は材料の常置場

■ 道路上、又は道路に接して道路管理者が設ける自動車駐車場

■ 道路管理者の設ける共同溝、又は電線共同溝

■ その他政令で定めるもの

